

日本油化学会 規格試験法委員会ホームページ

規格試験法委員会は、油脂及び関連分野の分析試験法の統一化を図るため、基準油脂分析試験法の制定、改廃、刊行を行う組織です。また、分析試験法の解説や新規分析試験法の紹介のためのセミナーを開催しています。

新着情報

平成 29 年度規格試験法委員会の組織・構成

平成 28 年度活動・分析試験法セミナーの記録

連絡先

新着情報 :

・第 17 回基準油脂分析試験法セミナーの開催(予告):

分析試験法の解説や新規分析試験法の紹介を行います。

日時:平成 29 年 10 月 19 日(木)20 日(金), 会場:油脂工業会館 9 階会議室

・オレオサイエンス誌 4 月号に基準油脂分析試験法特集として以下の 3 総説が掲載されました。

1. 山岡 正和:基準油脂分析試験法に新たに加わる試験法及び今後登録を予定している試験法.

オレオサイエンス, 17 (4): 167-170 (2017).

2. 神山 和夫, 宮崎 絹子:

2-/3-MCPD 脂肪酸エステル、グリシドール脂肪酸エステル間接分析法(酵素法)の開発

オレオサイエンス, 17 (4): 171-178 (2017).

3. 渡辺 嘉:トリアシルグリセリンの 2 位脂肪酸組成分析法(酵素エステル交換法)

オレオサイエンス, 17 (4): 179-186 (2017).

・2013 年版基準油脂分析試験法(第 1 刷、第 2 刷)に、以下の誤植がありました。

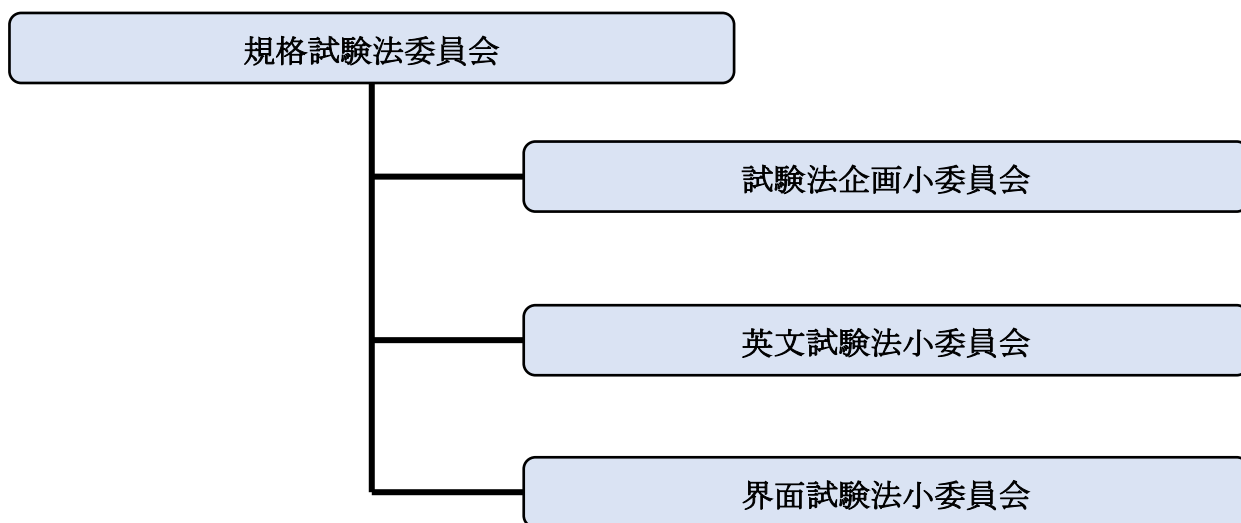
謹んでお詫びします。誠に恐縮に存じますが、お手元の試験法をご確認くださいようお願い致します。

試験法コード番号	試験法名	修正箇所	誤	正
2.3.6.2-2013	ヒドロキシル価 (ピリジン- 無水酢酸法)	1 ページ, 試験法名の行, 試験法コード番号の年数 (右下線部)	2.3.6.2-1996	2.3.6.2-2013

規格試験法委員会の組織・構成:

平成 29 年度規格試験法委員会メンバー

委員長	山岡 正和	(国研)産業技術総合研究所
副委員長	遠藤 泰志	東京工科大学
	平田 芳明	(一財)日本水産油脂協会
委員	朝倉 浩一	慶應義塾大学
	阿部 功典	日清オイリオ(株)
	大島 広行	東京理科大学
	神山 和夫	ハウス食品グループ本社(株)
	佐藤 俊郎	(株)J-オイルミルズ
	重松 康彦	キューピー(株)
	寺澤 真二	(一社)日本油料検定協会
	根津 亨	(株)ADEKA
	秦 真理子	(公財)日本油脂検査協会
	原 節子	成蹊大学
	町田 芳章	町田MSコンサルティング
	渡辺 嘉	(地独)大阪産業技術研究所



規格試験法委員会の平成 28 年度活動:

規格試験法委員会(委員長 山岡 正和)

委員会を 4 回開催した。また下部組織として試験法企画小委員会、英文試験法小委員会等を運営した。基準油脂分析試験法の広報普及活動の一環として第 16 回基準油脂分析試験法セミナー(実行委員長:神山和夫)を油脂工業会館において 11 月に開催した。

試験法企画小委員会(主務 重松 康彦)

小委員会を 3 回開催した。「基準油脂分析試験法 2013 増補改訂版」の刊行に向けて各試験法委員会と連携して試験法の記載内容文案について最終的な調整を行っている。なお、新規記載予定の試験法は、推奨法 1 件が追加されて、基準法 2 件、参考法 1 件、推奨法 2 件の計 5 件を予定している。

英文試験法小委員会(主務 朝倉 浩一)

委員会を 1 回開催した。基準油脂分析試験法 2018 年増補・改訂版の発行に合わせて、英文試験法 CD に基準法 5 項目を新たに追加することになった。

界面試験法小委員会(主務 大島 広行)

日本油化学会編「界面活性剤評価・試験法」改訂版が 4 月に発刊された。界面活性剤に関する ISO/TC91(大島主務が議長の国際会議)の平成 28 年度米国開催が中止になった。平成 29 年度はパリで開催予定である。

モノアシルグリセリン及びジアシルグリセリン(キャピラリーGC法)小委員会(主務 後藤 浩文)

単一試験室での精度を確認するとともに、対応する AOCS Official Method Cd 11b-91 と比較検討した内容を JOS に投稿して受理された。基準油脂分析試験法に推奨法として掲載する試験法文案を作成し、最終案を試験法企画小委員会の審議を経て、平成 29 年度に規格試験法委員会に提出する予定である。

2 位置脂肪酸組成小委員会(主務 渡辺 嘉)

トリアシルグリセリンの 2 位脂肪酸組成を測定する新規酵素法の本試験法が基準法として登録された(登録番号 2.4.5-2016)。試験法企画小委員会で短鎖脂肪酸を含む油脂に適用する場合に必要な改定を加えるためにさらに審議を継続した。また、短鎖脂肪酸を含む油脂の脂肪酸組成をプロピル化して分析する方法が参考法として登録された(登録番号参 2.2.2.2-2016)。

MCPD 脂肪酸エステル等(間接法)小委員会(主務 神山 和夫)

MCPD 脂肪酸エステル、グリシジル脂肪酸エステルを酵素分解し、遊離型成分の誘導体物を GC-MS で測定する本試験法が基準法として登録された(登録番号 2.4.14-2016)。AOCS 法(間接法)に比べて簡便かつ迅速であることから、2018 年の増補・改訂版発行に先行して、オレオサイエンス誌 8 月号で資料として公開した。

平成 28 年度開催 第 16 回基準油脂分析試験法セミナーの記録:

第 16 回基準油脂分析試験法セミナーに多数ご参加いただき有難うございます。

11 月 24 日は降雪の悪天候でしたが、2 日間の参加者数は 43 名でした。

開催日程、演題、講師は以下の通りです。

—品質向上に役立つ脂質成分、構造の分析法—

日時 :平成 28 年 11 月 24 日(木), 11 月 25 日(金)

会場 :油脂工業会館 (東京都中央区日本橋 3-13-11)

プログラム(演題と講師《敬称略》)

1 日目 11 月 24 日(木)

1. 油脂の構造と栄養 青山 敏明(大東カカオ株式会社)
2. 脂質構造から見た食品の脂質含量の分析法
—塩素系溶媒の代替抽出法— 村山 真一((一財)日本食品分析センター)
3. 油脂の酸化劣化とその評価法 原 節子(成蹊大学理工学部)
4. 油脂結晶の形と構造 本同 宏成(広島大学大学院生物圏科学研究科)
5. 油脂食品の物性の評価法 根津 亨(株)ADEKA)

2 日目 11 月 25 日(金)

6. 2-/3-MCPD 脂肪酸エステル,グリシドール脂肪酸エステル新規間接分析法(酵素法)
宮崎 絹子(ハウス食品グループ本社(株))
7. トリグリセリドを構成する脂肪酸の結合位置を分析する酵素法
渡辺 嘉((地独)大阪市立工業研究所)
8. 近赤外分析法の原理と油脂製品分析への応用
上田 守厚(ブルカー・オプティクス(株))
9. 超臨界流体技術の食品分析への応用 藤戸 由佳((株)島津製作所)

連絡先:

基準油脂分析試験法にとりあげたい試験法や、新規試験法制定のための合同実験への参加機関を募っています。皆様のご意見、ご希望やご応募をお待ちしております。

また、基準油脂分析試験法及び規格試験法委員会へのお問合せおよび質問は、下記の日本油化学会事務局宛にお願いいたします。

日本油化学会事務局	
E-Mail	yukagaku@jocs-office.or.jp
Tel	03-3271-7463
Fax	03-3271-7464
住所	〒103-0027 東京都中央区日本橋3-13-11油脂工業会館7F